

JAMの主張

リーダーとオルグの養成・確保

第15回定期大会 新役員代表 会長挨拶

機関紙 JAM 2013年9月25日発行 第175号

向こう2年間のJAMの新役員を代表しまして一言ごあいさつ申し上げたいと思います。

昨年暮れに誕生した第2次安倍政権は参議院選までの期間、それこそ牙を研いで静かに待っていたが、選挙の結果を受けて、多くの国民の皆様から信任を得たということで一斉にその牙をむき始めました。8月22日に行われました労政審の中では、雇調金を減らして転身支援を厚くする、あるいは労働時間の規制なんてやめてしまえ、あるいは限定26種なんていう区別は面倒だから全部派遣はOKにするということが具体的に提起され始めました。

私はこれまでよく三つの幸せを追い求めようというお話をしてきました。一つは働く者個人の幸せ、二つ目は家族あるいは職場、組織の幸せ、三つ目は日本全体の幸せを実現し追い求めようという話ですが、どうやら状況は変わりつつある。

最近よく聞かれるのは、三つの不安。一つは雇用不安、二つは生活不安、三つは老後を含めた将来不安。こういったことが確実に押し寄せてくるような気がしてなりません。こうした中であっても、我われは常に職場の組合員とのコミュニケーションを固め、できるものから一つずつ確実にやっていこうではありませんか。

そうした観点から、JAMの置かれている中で二つだけ申し上げます。一つは単組活動の強化、充実ということであります。安倍政権のもとに労働法制は、規制緩和という名のもとに改悪されようとしています。全単組ヒアリングの結果でも、今まではできていたけれどここ数年はできなくなってしまった一ということが読み取れます。しかし、これからの単組活動の強化には強烈なリーダーシップが必要だと思っております。駄目なものは駄目なんです。できないことはできない。こういった信念をしっかりと持ちながら会社との交渉にあたる。こういうリーダーを養成していくことも地方JAMのオルグの皆さんの力にかかっているということが一点です。

二つ目は、今ほど申し上げた地方活動の中でのオルグ。オルグの皆さんの人材の確保というのも足元喫緊な課題です。先ほど方針討議の中で大阪の代議員の皆さんから、お金は厳しくなっているけれどJAMの特徴である日常の世話焼き活動はしっかり確保して欲しいということがありました。今、JAMでは向こう四年間で四十名近くの大量定年者が見込まれています。したがって、確かに財政基盤は厳しい状況にありますが、これからもJAMの特徴である中小の皆さんに対する日常の世話焼き活動がスムーズに行くように、いわゆる中途採用も行っております。

ただ、われわれの仕事は一般の会社と多少違いますので、新卒あるいは労働組合経験の全然ない人ではなかなか定着が難しいという現実があります。そこで一つ、今日お集まりの代議員の中にJAMの組合員のために俺がやってやるというくらいの気構えのある方は、ぜひ中途採用の際にご応募いただければと思っております。

この二点だけ申し上げますが、他にもたくさんの課題があります。これらを確実に前進させていくのは、われわれ執行部だけでは到底できません。したがって、各17の地方JAMの皆さん、さらに構成していただいている2,000近くの単組の皆さんの力もお借りしながら、われわれ執行部、微力ではありますが先頭に立って活動展開をしてまいりたいと思いますので、向こう2年間よろしくお願ひします。